

令和4年度 日立市総合教育会議 会議録

日 時 令和5年2月10日（金） 午後1時30分から午後3時10分まで

場 所 日立市役所（3会場に分かれてのリモート会議）

構 成 員 市長
教育長
教育長職務代理者
教育委員
教育委員
教育委員

関 係 者 副市長
市長公室長
保健福祉部長
教育部長
理事

説 明 員 保健福祉部子ども局長
保健福祉部社会福祉課長
教育委員会総務課長
教育委員会学校施設課長
教育委員会学務課長
教育委員会学務課課長
教育委員会学校再編課長
教育委員会生涯学習課長
教育委員会スポーツ振興課長
教育委員会指導課長
教育委員会指導課課長
教育委員会記念図書館長
教育委員会郷土博物館長
教育委員会北部学校給食共同調理場長
教育委員会教育研究所長

事 務 局 教育委員会総務課職員

議 題

日立市教育大綱の推進状況と今後の重点施策について

報道関係

2社（茨城新聞社、JWAY）

傍聴者

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため傍聴無し。

※ 読みやすさ等を考慮し、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

会 議 の 概 要

1 開 会

総務課長

ただ今から「令和4年度日立市総合教育会議」を開会いたします。
本日の総合教育会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年と同様、市役所内の3会場に分かれてのリモート会議形式での開催といたします。

また、総合教育会議は原則公開となっておりますが、今回は、傍聴を制限し、後日、本日の議事録を公開し、会議内容を公表することといたします。

本日の議題は、「日立市教育大綱の推進状況と今後の重点施策について」でございます。

会議の進行は市長をお願いいたします。

市 長

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

御案内のように、総合教育会議は、毎年、市長と教育委員会が一体となって日立の教育を進めていくための場でございます。

本日の会議は、平成27年の第1回から数えまして、通算13回目であり、毎回「ひたちらしい教育」などについて意見交換を行ってまいりました。

また、この会議は、市長が策定することとされている「教育大綱」について協議する役割も担っており、皆様と議論を重ねながら、平成28年に最初の「日立市教育大綱」を策定し、令和元年に改訂をいたしました。

現在の教育大綱は、令和5年度までを計画期間としております。本日は、まず、日立市教育大綱に掲げる重点方針に沿って、これまでの教育施策の推進状況や課題について確認をしてまいります。

続いて、それらを踏まえて、今後、更に重点的に進めていくべき施策などについて、事務局からの説明の後、皆様と意見交換を進めてまいります。どうぞ、よろしく申し上げます。

2 議 題

(1) 日立市教育大綱の推進状況と今後の重点施策について

市 長

それでは、早速ですが、議題に移ります。

初めに、「日立市教育大綱の推進状況について」、教育部長から説明をお願いします。

教 育 部 長

御説明いたします。

議題1「日立市教育大綱の推進状況について」です。

主な内容として、学校教育、生涯学習、スポーツの分野ごとに、施策の推進状況について、説明します。

始めに、日立市教育大綱についてです。法律に基づき、市長が定めるものとされており、本市の教育や文化の振興に関する総合的な施策をまとめ、基本理念を「未来を拓く人づくり」とし、計画期間は、令和5年度までとなっております。

本大綱では、市長の教育に対する思いとして、家庭の教育力の向上を目指す「家族が好き」、児童生徒が夢や希望を持ち、それに向かって努力する教育を目指す「学校が好き」、郷土日立を愛し、誇りに思うことができる教育を目指す「ひたちが好き」の3点を掲げております。

また、本大綱では、重点的に取り組む「施策の方向性(推進テーマ)」として、御覧の3点を掲げております。

この推進テーマに沿って取り組んだ主な施策について、推進状況を説明いたします。

1つ目の推進テーマ、「【学校教育】いいところ発見 夢づくり」は、子どもたちの自己肯定感を高め、確かな学力の育成などに取り組み、未来への夢を描く能力や姿勢を育てる学校教育を推進するとしております。

御覧のとおり、6つの施策の柱を掲げております。

1つ目の施策の柱、「①確かな学力の定着と活用する力の育成」では、新聞を活用したNIEの取組や、郷土学習・星空学習など特色ある教育内容の充実により、深い学びの観点から、教育の質の向上を図りました。

関連する指標として、全国学力・学習状況調査での「児童生徒の国語及び算数・数学がよく分かる割合」をお示ししております。令和元年度との比較では、小学生がやや下がっており、中学生は上昇しております。全国平均よりは、いずれも上回っているところですが、今後におきましても、教職員研修等の実施により、より質の高い授業を展開できるよう努めてまいります。

次に、「②子ども一人一人に寄り添う教育の推進」では、教育相談員の全校配置や研修会の開催、生活指導員の配置など、支援体制の充実に取り組みました。

関連指標として「児童生徒の学校に満足している割合」をお示ししております。令和元年度と比べ、小学生は0.9ポイントの上昇、中学生は2.6ポイント下がっております。コロナによる学校生活での行動の制限、行事の縮小などが要因の一つと捉えております。

今後の課題として、引き続き、不登校児童生徒へのきめ細やかな支援や、実態に応じた生活指導員の配置に取り組む必要があります。

「③豊かな心と健やかな体を育む教育の充実」では、本市独自の取組である、自分の良さや将来の夢を記録する未来パスポート事業を始め、地域人材を活用した部活動サポート、学校給食の充実などに取り組みました。

「児童生徒の将来の夢や目標を持っている割合」は、令和元年度に比べ、やや減少しているものの、国平均よりも、それぞれ3ポイント以上、高い割合となっております。

特に未来パスポート事業などは、取組の積み重ねによって効果が認められる事業ですので、引き続き継続してまいりたいと考えております。

「④次代を担う力を磨き高める教育の推進」では、日立理科クラブと連携した理数教育を始め、ICT機器等の環境整備、英語体験活動、英語科教員の海外研修などに取り組みました。

ICT機器の整備率は、タブレットとプロジェクタが、令和2年度に100%、電子黒板は令和4年度現在17.3%となっております。

また、中学3年生の英検3級程度以上の割合は、国平均を上回る53.7%となっております。

今後の課題として、電子黒板の早期整備を目指すほか、教員のICTスキルの向上を図るため、研修支援に更に取り組んでまいります。

「⑤学習環境の充実と地域とともにある魅力ある学校づくり」では、学校施設の改修や建て替え、学校再編に向けた取組などを行いました。

学校施設の整備状況では、日高小、豊浦小などの校舎改築や、教室のエアコン整備、トイレ改修などを行いました。

また、学校再編計画の第1期に位置付けた再編校への説明会や統合準備委員会の開催など、新たな学校づくりに向けた協議を進めました。

今後も、児童生徒の教育環境の向上のため、学校施設の計画的な維持管理や整備に取り組んでまいります。

こちらのシートは、学習環境に関連して、「新型コロナウイルス感染症対策」についてです。

コロナ禍となった令和2年度以降、学校における児童生徒の感染症対策として、感染症対策用品の配布などを行いました。

特に本市独自の取組として、児童生徒への冷水ペットボトルやひざかけの配布、学校への飛沫防止用パーテーションの設置などを行いました。

今後も、引き続き、感染症対策を講じながら、学校行事等の円滑な推進に努めてまいります。

次に、「⑥すべての子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所づくり」では、放課後子ども教室及び児童クラブについて、開設数の拡充

などを行いました。

推進状況は、令和元年度と比べ、子ども教室の開設数は5校から19校に、公設児童クラブの受入れクラス数は24校、24クラスから38クラスに拡充しました。なお、令和3年度以降、児童クラブの待機児童はゼロとなっております。

今後も、保護者ニーズを踏まえ、放課後子ども教室の開設数の拡充や体験活動の充実などを図ってまいります。

続いて、2つ目の推進テーマ「【生涯学習】ゆたかな学び 未来につなぐ 人づくり」でございます。

市民の誰もが生涯にわたって生き生きと過ごすことができる生涯学習を推進するものです。

御覧のとおり、3つの施策の柱を掲げております。

「①地域や家庭における教育力の向上」では、学校運営協議会制度の推進や、職業探検少年団、ひたち大好き博士事業などを通して、地域における様々な体験活動の機会を提供しました。

学校運営協議会は、令和3年度、全ての小中学校等に設置し、学校と地域がともに目指す「育てたい子どもの姿」の実現に向けて各校で協議が行われております。

また、職業探検少年団では、地域、産業界、行政が一体となって、活発な少年団活動が展開されております。

今後も、地域ぐるみで子どもたちの成長を支える環境づくりの充実を進めてまいります。

「②市民の自主的な生涯学習活動への支援と環境整備」では、新しい図書館サービスとして電子書籍貸出サービスを導入したほか、郷土の宝であるラジオ体操について、日立市長杯コンクールを開催するなど、広く発信し、普及などに取り組みました。

今後も、多様化する学びのニーズに対応し、学習機会の更なる充実を図ってまいります。

「③多様な文化・芸術の推進」では、日立風流物や長者山遺跡など文化財の保存とともに地域活性化のために活用する「日立市文化財保存活用地域計画」などを策定し、史跡の整備検討やモデルコースマップの作成などを進めました。

今後の課題として、文化資源を最大限に活用するため、情報発信力の強化を進めながら、引き続き、交流人口の拡大を図る取組が求められます。

続いて、3つ目の推進テーマ「【スポーツ】楽しくスポーツ 活力づくり」でございます。

子どもから高齢者まで、スポーツを通じて、健康で生きがいを持って暮らせる活力ある健康都市を目指すものでございます。

御覧のとおり、3つの施策の柱を掲げております。

「①子どもから高齢者までスポーツに親しむ環境の充実」では、市民運動公園やスポーツ広場などスポーツ施設の整備に計画的に取り

組みました。

整備状況として、池の川さくらアリーナの大型映像装置や、スポーツ広場の照明設備、屋外トイレなどを整備しました。

今後も、スポーツに親しめる環境づくりを、計画的に推進してまいります。

「②競技力の向上とスポーツ団体等の活性化」では、県内最多となるスポーツ少年団及び総合型地域スポーツクラブなどへの支援により、スポーツ団体の活動促進を図りました。

今後の課題として、安全で安心なスポーツ少年団等の運営や指導者の資質向上のための支援に、引き続き、取り組めます。

「③スポーツを通じた交流人口の拡大」では、プロスポーツやトップアマチュアによる試合や交流イベント、スポーツ合宿の誘致に取り組んだほか、各スポーツチームと連携協定等を締結しました。

今後も、交流人口の拡大を図り、まちの活性化につなげるため、スポーツチーム等との連携を強化し、より多くのスポーツイベントや合宿の誘致などに、引き続き、取り組んでまいります。

現教育大綱の推進状況については、以上でございます。

市長 ありがとうございます。

教育大綱の冒頭でもお示ししておりますが、これからの未来を拓く子どもたちが、ひたらしさを活かした教育で、大きな可能性を伸ばしていけるよう、まち全体で、子どもたちを育てていきたいというのが、私の願いです。

子どもたちの安全・安心を第一に、その可能性を伸ばしていくことが重要であり、設置者として、教育委員会を後押しするとともに、子育てのしやすいまちづくりに向けて必要な事業についても予算化してまいりました。

今後も、子育て世代を始め、多くの方々から、日立市に住んで良かった、住み続けたいと思われる取組を、更に推進してまいりたいと考えております。

それでは、ここまでの事務局の説明について、委員の皆様から、御質問があればお願いいたします。

委員 アンケート調査によって、おおむね良い結果が得られたのではないかと考えております。本当に関係者の皆様の頑張りの成果かなと考えております。

教育環境とか子育ての環境も財政当局の支援のお陰で、これもまた順調に進められているという感想を持ちました。ありがとうございます。質問ですが、スライドの7ページにある推進状況の中の「特色ある教育内容の充実」と「主体的・対話的で深い学び」がどう結びつのか説明していただければと思います。

市長 委員からの御質問について、事務局から回答をお願いします。

指導課長 本市の特色ある教育の具体例として挙げたN I Eの事業。こちらは、子どもたちが自ら記事を持ち寄って協働的に学ぶ取り組みをしています。

また、郷土学習、星空学習などは本市の教育資源である郷土博物館やシビックセンターなどでの校外学習で一人一人の興味関心を高め、学んだことをクラス全員で共有するなど、しっかり学びにつながるよう取り組んでいるところでございます。

こうした特色ある教育内容の充実によって、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質能力や学ぶ意欲を身に付け、主体的・対話的で深い学びの実現につながっているものと考えております。

市長 ただ今お答えがございましたが、委員いかがですか。

委員 追加で意見を述べますが、御紹介いただいた事業はひたらしさを活かした教育だと思うので、是非それを各学校で活かしていただきたいと思います。ありがとうございました。

市長 私からも質問ですが、「子ども一人一人に寄り添う教育の推進」というところで、児童生徒の学校に満足している割合が、意外と低いと思いました。

小学生の割合は若干上回っていますが、中学生の割合が下回っています。これは、不登校にもつながってってしまうのではないかと懸念を持ちますが、全国や県内と比較してどうなのでしょう。

指導課長 ただ今の市長からの御質問ですが、この調査は、QUアンケートというものでございます。こちらは児童生徒の小学校4年生から中学校2年生までを対象に質問項目がありまして、例えば「運動や勉強等クラスの人から認められていると思う」、「何かしようとする時、協力してくれる友人がいる」など、小学生では14の項目、中学生では22の項目によって構成されています。

その結果、満足している割合は小学生が66.7%、中学生が59.6%となっております。全国的な平均値というのはありませんが、全国の規定値よりは毎年度高い傾向を示しております。

市長 学校の先生方が一生懸命にやっていることが、児童生徒に伝わっていくことが望ましいと思います。

引き続きこの満足度が上がっていくように、丁寧な教育をお願いしたいと思います。

ほかに委員の皆様から御質問などありますか。

なければ、次の議題に移りたいと思います。

それでは、続きまして、2つ目の議題に移ります。

「今後の重点施策について」、教育部長から説明をお願いします。

教育部長

議題2「今後の重点施策について」説明いたします。

始めに、日立の教育に関するアンケート調査の結果を御報告し、その後、今後の重点施策について説明します。

日立の教育に関するアンケート調査は、令和5年度の次期日立市教育振興基本計画の策定にあたり、実態等を把握し、その意見を計画に活用するため、昨年、令和4年11月に実施いたしました。

現在、報告書を作成中ですが、本日はその概要を報告いたします。

調査対象者は、学校教育、生涯学習、スポーツの分野ごとに御覧のとおりです。

調査結果の概要です。

まず、「学校教育」に関するアンケートの児童生徒の結果です。

表の構成は、左から質問項目、主な結果、その右側には、結果を踏まえた課題等を記載しております。

学校生活の満足度は、約9割がおおむね満足と回答しております。授業の理解度は、約9割が「よく分かる」「だいたいよく分かる」との回答です。

苦手な教科は、児童・生徒の上位5教科をお示ししております。平成29年度の前回調査と比べ、外国語を苦手とする割合が増加しました。

タブレットを使った授業と使わない授業でどちらが分かりやすいかの質問に、55%が「使った授業」、15%が「使わない授業」と回答しております。

これらの結果から、課題として、子どもが満足できる環境づくりや分かりやすい授業づくり、英語教育、ICTを活用した教育の推進をあげております。

引き続き、児童生徒の結果から、タブレットの活用では、約9割が「できる」「だいたいできる」と回答し、パワーポイントやプログラミングなど、応用的な操作ができる割合が前回調査と比べ増加しました。

興味のある学習では、「プロジェクターなど映像を使った学習」と回答した割合が高く、また、「先生が黒板などで教えてくれる学習」「学級や班で話し合う学習」が前回調査と比べ増加しました。

郷土愛に関する質問、日立市が好きかの質問に、「とても好き」、「どちらかといえば好き」と回答した割合は、児童92.9%、生徒77.7%でした。

これらの結果から、それぞれの課題として、ICTを活用した教育の推進や、デジタル学習と体験的な学習による効果的な授業の実践、郷土愛の醸成などを挙げております。

保護者・教職員の結果では、保護者が身に付けさせたい学力の1位

は「自ら考えて問題解決する力」となっており、上位3位は、前回調査と同様の結果となりました。

また、求める学校の改善点では、保護者は「授業など学習指導に関すること」、教職員は「学校施設や備品等の充実に関すること」が最も多い結果でした。

教職員が希望する研修では「ICTを活用した指導力を高める研修」が最も多く、教職員の多忙感では、約8割が「ほとんど毎日忙しい」「忙しい日が多い」と回答しております。

子どもの放課後の過ごし方では、保護者への「お子さんにどのように過ごしてほしいか」の質問に、「放課後児童クラブや子ども教室に参加する」と回答した割合が、前回調査と比べ増加しました。

これらの結果から、それぞれの課題として、確かな学力の育成や、教職員研修の充実などを挙げております。

「生涯学習」に関するアンケートは、16歳以上75歳以下の一般市民を対象に、住民基本台帳から無作為抽出してお願いしたものです。

自分が学んだ生涯学習の種類では、「スポーツ・健康づくり」「趣味・芸術」「教養」の順に多い結果となっており、学んだ理由は、「趣味の幅を広げて人生を豊かにしたい」が最も多い結果でした。

今後、生涯学習を盛んにしていくために必要なことでは、「生涯学習に関する情報を得やすくすること」が最も多い回答となっております。

課題として、生涯学習に関する情報発信、機会の充実をあげております。

「スポーツ」は、児童生徒に加え、先程の生涯学習と同様に16歳以上75歳以下の一般市民を対象に行いました。

スポーツの取組状況では、「週1回以上」と回答した割合は、児童生徒は8割、一般は4割となっております。

スポーツ振興のために取り組むべきことでは、児童生徒からは「グラウンドや公園を増やしてほしい」、一般では「芝生のグラウンドや公園を増やしてほしい」のほか、「プロなどトップスポーツの観戦機会を拡大してほしい」といった回答が多い結果となりました。

課題として、スポーツに親しめる環境づくりや、観戦機会の充実などを挙げております。

以上がアンケート結果の概要です。

先程、推進状況で説明した今後の課題や、ただ今のアンケート調査結果などを踏まえまして、今後の重点施策の柱として、御覧の6点を掲げました。

1点ずつ説明いたします。

1つ目の柱「学力の向上」についてです。

まず、「確かな学力の育成」として、子どもたちが確かな学力を身に付けられるよう、本市の特色である、新聞を活用したNIEの取組や、ものづくりのまちの特性を活かした科学学習の推進、コミュニケ

ーション力を培う英語教育を推進するほか、より質の高い授業の展開につながるよう教職員研修等の充実に取り組みます。

次に、「ICTを活用した教育の推進」として、タブレットや電子黒板等を積極的に活用し、分かりやすく知的好奇心を育む授業を実施するため、学校への電子黒板の整備促進や、デジタル教科書の導入検証、教員のスキル向上を図るICT活用研修の充実に取り組んでまいります。

続いて、2つ目の重点施策の柱「教育環境の向上」です。

まず、「教育環境の整備」として、子どもたちのより良い教育環境を整備するため、学校再編に向けた取組を推進するほか、日立特別支援学校の整備に向けた取組や、小中学校等の特別教室へのエアコン整備やトイレ改修など学校施設の整備に取り組んでいます。

「地域と連携した魅力ある学校づくり」では、地域全体で子どもたちの豊かな育ちを支援する仕組みづくりを進めるため、全校に設置した学校運営協議会制度を推進するとともに、各校にコーディネーターの配置を進めるなど、地域学校協働活動を推進してまいります。

「寄り添い支える支援体制の充実」では、児童生徒一人一人に寄り添う教育を推進するため、これからも、子どもたちや保護者の様々な悩みの相談・支援に当たる教育相談員の小中学校等全校への配置を継続するほか、教育現場の実状に応じた生活指導員の配置に努めてまいります。

「教職員の働き方改革の推進」では、部活動の段階的な地域移行に向けて関係団体などと検討を進めるほか、引き続き、ICTを活用した授業をサポートするICT支援員の配置や、学校現場での対応を支援するスクールロイヤーやスクールソーシャルワーカーの配置を継続してまいります。

次に、3つ目の重点施策の柱「子どもの居場所づくり」の「放課後子ども教室・児童クラブの推進」です。

更なる子どもの居場所の確保、充実を図るため、放課後子ども教室の開設校を拡充するほか、児童クラブについては、今後も希望する全ての児童を受入れられるよう体制整備を図りながら、放課後子ども教室と児童クラブの一体的な運営を推進してまいります。

「家庭環境による課題への対応」では、様々な家庭環境による課題に対応し、教育と福祉が連携して、子どもの居場所づくりや学ぶ意欲に応えるため、引き続き、地域での子どもの見守りにもつながっている子ども食堂への運営支援、経済的な問題を抱えている世帯の子どもを対象とした無料学習塾への支援を行ってまいります。

続いて、4つ目の柱「生涯学習機会の充実」の「学びの機会の充実」です。

誰もが、いつでも、どこでも学び続けられる生涯学習の機会の充実を図るため、市民の生涯学習活動への支援として、博物館など講座案

内の積極的な情報発信や、電子書籍貸出サービスの利用促進ほか各種の図書館サービスの充実、ラジオ体操の普及推進に取り組んでまいります。

「文化財を活用した郷土愛の醸成と交流人口の拡大」では、日立市文化財保存活用地域計画に位置付けた文化財周遊コースの広報・啓発など、文化財の保存と活用を推進するほか、日立風流物展示施設等の整備に向けた取組を進めます。

5つ目の重点施策の柱「スポーツの振興」の「スポーツ施設の整備とスポーツを通じた地域の活性化」です。

更なるスポーツ環境の充実とスポーツを通じた交流人口の拡大を図るため、市民運動公園野球場の再整備やスポーツ広場の整備のほか、本市初となるフルマラソンの開催に向けて検討を進めてまいります。

6つ目の重点施策の柱「子育て支援等の充実」です。

全庁を挙げて取り組んでいる日立市の子育て支援について、主な取組をお示ししております。

御覧のとおり、子どもたちの成長をまち全体で応援するため、妊娠・出産期からお子さんの成長に合わせ、切れ目のない様々な支援を行っております。

こうした中で、教育委員会の取組としましては、「子育て世帯の負担軽減」として、児童生徒の新入学を祝うランドセル・スクールカバンの贈呈や、1人当たり月額500円の給食費の助成、市独自に少年団活動費用も支援する就学援助などを引き続き行い、子育てしやすい環境づくりを推進してまいります。

また、「若者の修学支援の拡充と市内定住の促進」として、日立市奨学金の貸付人員を拡充するほか、卒業後の市内定住促進を図る奨学金返還支援事業をより広くPRし、推進してまいります。

以上が、今後の重点施策についてでございます。

今後も、ひたらしさを活かした特色ある取組を推進し、「教育は日立市で！」と思われる教育の実現を目指してまいります。そして、教育大綱に掲げた「家族が好き」、「学校が好き」、「ひたちが好き」につなげてまいりたいと考えております。

以上でございます。

市長 ありがとうございます。

説明にもありましたように、重点施策の柱を6本お示ししておりますが、今後の「日立の教育」を実現するために、いずれの柱も揺らいではならないものと思っております。

その中で、「学力の向上」や「教育環境の向上」に関連しますが、本市としましても、加速するデジタル化に遅れが生じることのないよう努めるとともに、子どもたちに様々な実体験の機会を提供していくことも重要であると考えております。次代を担う子どもたちの成長を

後押しする上で、デジタル教育と対面教育をバランス良く、最大の効果を得られるよう進めていくことが大事なことだと思っております。

それでは、今後の重点施策について、委員の皆様の御意見やお考えを伺いたいと思います。

委 員 「確かな学力の向上」のところですが、持続可能な社会の担い手を育てていくためには、「探求学習」が大切だと思います。子どもたちも知識や経験があるので、そこから考え、判断する力が大事だと思います。これを実践できるのが探求学習だと思っていますので、取り入れていただければありがたいなと思っています。

もう一点は、従来から申し上げているとおり、これからグローバル化社会では大事なものは「コミュニケーション力」だと思います。

市 長 ありがとうございます。委員からの御意見について事務局からお答えをお願いします。

指 導 課 長 まず「探求学習」についてですが、各学校において総合的な学習の時間等を活用し、地域や児童生徒の実態に即した実践を重ねているところでございます。

教職員に向けた学習指導のポイントをまとめた「日立の学校教育」でも探求のプロセスを重視した総合的な学習の時間として、年間指導計画の作成と探求課題設定の工夫及び探究的な学習の過程の一層の充実について示しております。

また、「コミュニケーション力」ですが、これを育成するためには、コミュニケーションを行う目的を明確にすることが大切だと考えております。意欲付けを図ることが重要です。例えば、各学校の探究学習の成果をパワーポイントなどを使いながら分かりやすく表現し、発信する場の設定が考えられます。

その効果的な方策については、今後も学校と連携しながら検討してまいりたいと考えております。

市 長 ありがとうございます。
デジタル化が進んでも相手の話をよく聞き、自分の意見を述べるためには、やはり訓練が必要だと思っています。様々な人との交流を通して、学んだり考えたり、成長していくものだと思うので、「コミュニケーション力」の向上につながる取組というのは大事だと思っています。

委 員 前回調査と比べて外国語を苦手とする割合が児童生徒ともに増加したというアンケート結果がとても残念だなと思っています。これは、親の教育に関する姿勢などが反映される教科の一つでもあると思います。また、テストの点数が低いイコール苦手になってしまうのだ

とすれば、残念だと思います。

今は、いろいろな翻訳アプリがあるので、外国語ができなくてもいいと思っているお子さんも実際にいるかもしれませんが、外国語を学ぶと異文化理解が深まったり、物の見方がちょっと違ってきたりなど、いろいろなものの見方ができるようになると思うので、前向きな気持ちが生まれるような授業が展開できたらいいと思います。

市長 ありがとうございます。
委員からの御意見について事務局から回答をお願いします。

指導課長 引き続きALTの積極的な活用を各学校に呼び掛け、英語で外国人とコミュニケーションをする達成感や楽しさを味わい、異文化に触れることを通して世界に目を向けられるような授業づくりを目指してまいります。

国が令和6年度から本格導入を予定している英語教育のデジタル教科書は、音声読み上げ機能など、英語教育との相性が良いので、今後家庭学習も含めて更なる活用を図っていくことで、自信を持って英語に取り組む児童生徒を増やしていきたいと考えております。

市長 グローバル社会では、国際共通語である英語は必須だと思います。
私もよくテレビでG7とか、各国の首脳が集まっている会議を見ますが、最近では日本の首相も英語で相手国の首相と対等に会話をしているのを見ると、以前とはかなり違ってきたなと感じています。
英語を学ぶ機会が多くなってきているので、子どもたちが楽しんで外国語学習ができるように、引っ張っていただきたいと思います。
そういった意味で、デジタル教科書の導入による英語教育に期待したいと思っております。

委員 質問が少し重なる部分もありますが、スライド8の「QUアンケート」による満足感と、スライド24の「日立の教育に関するアンケート調査」の学校生活の満足感では、満足と回答している割合に大きな差があるように感じたのでそれぞれどのような質問項目で構成されているのか教えていただきたいと思っております。

市長 私も委員と同じことを聞こうとしていたところですよ。
事務局から回答をお願いします。

指導課長 スライド8のQUアンケートによる満足感は、小学4年生から中学2年生までを対象に実施しております。質問項目は「運動や勉強等でクラスの人から認められていると思う」など、小学生14問、中学生22問の結果を総合的に判断評価して学校の満足感を計っているものです。このアンケートは、学校全体よりも学級の中での立ち位置とい

うところを示しています。

スライド 24 の日立の教育に関するアンケート調査については、小学5年生及び中学2年生を対象に「今の学校での生活に満足していますか」という一つの質問に対して、「満足している」または「だいたい満足している」と回答した割合がそれぞれ、89.9%、87.2%という結果であったというものです。

このような質問形式の違いが、子どもたちにとっては違うような形に捉えられているものと思っております。

QUアンケートの方はより細かく一人一人のクラスや集団の中での満足感を捉えていますので、こちらの結果を重視しながら学校とともに指導していきたいなというふうに考えております以上です。

市長 委員さんいかがでしょうか。

委員 ありがとうございました。

市長 QUアンケートについても、7割以上の子どもが満足できるような結果に上げていく必要があるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

その他、御意見がありましたらお願いいたします。

委員 アンケートにもありましたように、教職員の多忙感とか部活動の地域移行は、教員の人員不足が問題なのではないかと思っています。

その問題については、国とか県全体でやっていく話だとは思いますが、では、日立市には何ができるのかとなると、今の限られた先生方が最大限の能力を発揮できるような環境にすることが大事だと思います。

まずはICTの活用が重要になってくると思うので、重点的にお願いしたいと思います。

市長 委員からの御質問に対し、事務局から回答をお願いします。

指導課長 令和2年度に1人1台にタブレットの配備が完了し、ICT支援員の配置や各校にICT推進担当教諭を設けるなどしまして、ICTの効果的な活用が現在図られてきていると考えております。

ICTの活用を進めながら、生み出された時間を教職員は子どもたちと向き合う時間や教材研究などに充てられるよう取り組んでいきたいと考えております。

そのためにも重点施策に位置付けたように、電子黒板の整備促進とともに教職員のICT活用研修の充実に向けた取組を今後も進めてまいります。

市長 ICTの支援について、教育委員会としては各学校への支援は順調

に進んでいると考えていますか。

指導課長 学校訪問を通しましてICTを使った授業を参観することができます。その都度、ICTの効果的な活用について支援をしているところがございます。また、先程も話をしましたが、ICT支援員、またICTの得意な先生方のICT推進担当教諭の質の向上も高める支援をしているところがございます。

市長 学校間のばらつきが一番怖いと思います。
ICTの得意な先生がいる学校とそうでない学校だと、やはり日頃の取り組み方によって差が出てきてしまう。その差をどう埋めていくかは、これから教育委員会がサポートしなければならないところだと思います。

そういった達成すべきレベルをしっかりと検証しながら日立市のICT教育が先進的な取組となるように頑張っていたいただきたいと思います。

先生方も大変だと思いますが、これは時代の要請でやらなければいけないことだと思っています。

子どもたちにとっても先生方にとっても慣れてくれば非常に効果的な学習方法になると思うので、よろしく願います。

委員、よろしいでしょうか。

委員 ありがとうございます。

市長 電子黒板の整備率は現在17%ですので、早く学校間の格差を無くすことができるよう、力を入れていきたいと思っています。

続いて、「ひたらしさを活かした教育」を推進していく上でどのようなことが大切か、委員の皆様のお考えを伺いたいと思います。

委員 「ひたらしさ」を活かした教育の推進では、現在進められている「科学教育」がまず挙げられるのではないかと思います。

地域コーディネーターが各地域にいると思いますが、これと理科クラブとの連携が大事なのではないかと思います。

もう一つは、かつて瀬谷義彦先生が言っておられた「日立力」を前面に出してはどうかと思っています。日立市は、ものづくりのまちで煙害を克服したという経緯もあり、また、国産初の5馬力モーターの開発もあります。こうした教育資源を活かして郷土教育を加えたカリキュラムとしてやっていくことが求められているのではないかと考えています。

教育大綱の基本理念の中に「本市の学校教育では、ものづくりのまちとして培われてきた技術や精神とともに、郷土への愛着や伝統・文化などを基盤として、グローバルに活躍できるための基礎を育みま

す」とありますが、これをもっと具体的にしていく必要があるだろうと思います。

市長 委員からの御意見に対して、事務局から回答をお願いします。

指導課長 まず、科学教育ですが、専門性の高い地域人材を活用した「日立理科クラブ」による授業支援や理科室のおじさんの配置は、本市の「ひたちらしさ」を活かした教育の柱のひとつとして、全国的にまれな取組であり、科学教育の推進が図られていると考えております。

地域コーディネーターと理科クラブとの連携というところは今後、検討していきたいと思います。

郷土教育については、小学3・4年生には、校外学習や副読本「のびゆくひたち」を活用した地域学習、6年生は、郷土博物館や日鉱記念館、ひたちオリジンパークの見学などの校外学習を行っているところでもあります。

また、推進状況の中で御説明した「ひたち大好き博士事業」では、児童生徒に積極的な地域イベントへの参加や市内公共施設利用の機会を提供し、郷土日立に対する理解を深める機会を提供しているところでございます。

現在の教育振興基本計画にも、日立市の発展と「日立力」については触れているところあります。

今後もこれまで築き上げてきた教育資源を生かしながら郷土日立を思う子どもたちを育ててまいりたいと考えております。

市長 委員よろしいでしょうか。

委員 ありがとうございます。

市長 続いて、委員をお願いします。

委員 就労している若い世代の生涯学習の充実を是非お願いしたいと思っています。

若い人が、働きながらスキルアップにお金を掛けることは難しいと思っています。行政と地域が連携して若い人が知識や技術を常にアップデートできるような場を設けていただけたらと思います。

また、日立の立地を生かし、AI時代が到来しても欠かすことができない一次産業への関心、参加を深める授業を大切にしてほしいと思います。

市長 委員からの御意見に対して、事務局から回答をお願いします。

生涯学習課 本市では、若者が本来持つ力を存分に発揮し、生きがいを持って

かがやき、日立市に住んでみたい、住み続けたいと思えるまちを目指し、「ひたち若者かがやきプラン」を策定し、若者世代が自らの意思で参加・参画できる環境づくり等に取り組んでいます。

一例として、高校生による放課後子ども教室での小学生への学習支援や体験プログラムの実施について、調整を進めているところです。

今後も、若者の視点で企画したことを実践し、自らが学び成長する機会を提供していきたいと考えております。

また、一次産業に関する授業については、「総合的な学習の時間」での米作り体験や水産教室体験の取組のほか、農園などでの職場体験を行っている学校もあります。また職業探検少年団により、産業、農業、水産業の職業体験ができる機会を設けております。

今後も、一次産業への関心・参加を深める授業を進めてまいります。

市長 委員からの御意見にあるように、若者を対象として生涯学習、勉強できる機会を設けてスキルアップできるようにしてほしいと思います。

今後は、高校生・大学生にもしっかりとした支援をし、活躍してもらうことが、将来の日立市を支えることにもなるのではないかと思います。

また、生涯学習の在り方を考える時期に来ているのではないかと思います。

そういう意味で、私の感想としては、教育振興基本計画の中で学校教育、生涯学習、スポーツを一緒にするのではなく、個別計画を策定してもいいのではないかと思います。

いずれにしても、高齢者に対する学習だけでなく、若者がもっと参加できるような生涯学習にしてほしいと思います。

続いて、委員からお願いします。

委員 既存のひたちらしさは日立の教育に活かされていると思います。これからは新しいひたちらしさを模索し、検討する時期にあるように思います。

市長 委員の御意見に対して回答をお願いします。

総務課長 来年度は、次期教育振興基本計画を策定する年度となります。次期計画の中においても、大きな柱として、ひたちらしさを活かした取組の充実は必要不可欠なものと考えています。

本日いただいた委員の皆様の御意見を参考とさせていただきながら、来年度に設置予定の計画策定委員会での協議などを通して、これからのひたちらしさを活かした取組を検討していきたいと考えております。

- 市長** 私が思うひたらしさは、ほかの自治体になくて日立市にしかないもの、ほかの自治体にあるが、日立市がひと工夫、ふた工夫している特徴があるもの。それをひたらしさと私は定義付けています。
- 例えば、桜ですが、桜の名所はあちこちにありますが、日立の桜は公害を克服したオオシマザクラであるという点がほかと違うと思います。
- このひたらしさをどう捉えるかによって、取り組み方が変わってくると思います。
- 教育の分野においてひたらしさを推進していけるといいと思っています。
- 委員** 日立市は、県内の他の市町村に比べ、歴史もあれば培ってきたものがあるので、まだまだいろんな意味で力があると思っています。
- そういった力があることを先進的に取り組むことがひたらしさにつながると思います。
- 例えば、駒王中を建設したときもいろいろな生徒が集まれる場所を作ったりしていたし、多様性とかそういったものを進めてきたと思います。
- 今後、学校の統廃合も進めていくので、新しい校則の在り方とか様々な取組を進めていっていただきたいと思っています。
- 市長** ありがとうございます。
- 確かに、駒王中ができたときはすごかったですね。
- 委員がおっしゃられたように画期的な学校でした。
- ただ今の御意見に対して、事務局から回答をお願いします。
- 総務課長** 本日御報告した次期教育振興基本計画策定に向けて実施いたしました、日立の教育に関するアンケート調査結果などから実態等を把握し、分析しまして、子どもたちを始め、日立の教育に何が求められているのか見極めながら、これからの新しい取組を含め、効果的な取組を検討していきたいと考えております。
- 市長** このアンケートはとにかく大事だと思います。
- 教育振興計画の中に学校教育と生涯学習、スポーツを入れ込むのであれば、それぞれに対するアンケートをしっかりと分析してほしいと思います。
- 今までのひたらしさに、さらに磨きをかけること、そして新しいひたらしさを作っていただきたいと思っています。
- ありがとうございます。
- 先程の事務局からの説明にもありましたように、本市の特色ある教育の中に、新聞を教材としたNIEの取組がございます。学習を通し

て、今社会で起こっている問題や出来事を知り、考える機会となり、子どもたちが社会性を身に付けるために、とても有効なものだと思います。

教育長が就任されてからN I Eを積極的に進めており、私も非常に重要な取組と認識しています。

私は、未来を担う子どもたちには、心身ともに健康で、一人一人が持つ才能や能力を活かし、社会的に自立して行ってほしいと願っています。そのためには、いかに社会性を育むかが大事なことだと思っております。

そこで、子どもたちが社会性を身に付けるためには、どのようなことが大切か、最後に委員の皆様からお一人ずつお考えを伺いたいと思います。

委 員 子どもたちの社会性を育てるためには、集団や地域で経験や体験活動の機会を増やすことだと思います。

かつては地域の中で異年齢の仲間遊びを通して社会性を培うことができましたが、昨今はあまり期待できなくなっています。今の子どもたちは狭い経験の中で社会性を育てて、そのため人間関係の結び方がうまくできない子どもが増えているのではないかと思います。

私たちがそうした場を用意することも必要になるのではないかと思います。

例えば、学校では異年齢集団による自分たちで活動を創出する時間を確保したり、子ども会を再生したりすることなどがあります。

今の子どもの育ちに大人があまりに関与しすぎなところもあるので、子どもたちの自主性に任せることも大事だと思います。

市 長 私も、委員からの意見にもあったように子どもたちの経験値が下がっていると思っています。

特に関心を持っているのは、親の経済状況などで、子どもの学力に格差が生じることのないようにしなくてはならないと思っています。

放課後子ども教室、放課後児童クラブなどで子どもの居場所づくりあるいは公共施設の利用促進であるとか、少年団の活動などを推進して、子どもたちの様々な体験活動ができる場の提供を支援していくことも極めて大事なのかなと思っています。昔みたいにそこら辺の子どもたちが集まって、遊びながら上下関係を学ぶようなことがなくなっているから、委員がおっしゃるように子どもたちが社会性を育む場を設けることが大事なのではないかと思います。

委 員 学校などを含む様々な社会活動に参加させることが一番大事だと思います。先程アンケート調査の満足度という話がありましたが、人間関係で100%ということはありません。いじめや暴力は別

として、いざこざが起こったり、ギスギスするようなことがあるのは当たり前だということを理解できるようになることが大事なのではないかと思います。

非認知能力の育成も大切だと思っていて、そのためには、習慣作りが大事だと思います。

早寝、早起き、朝ごはんだったり、共働きの世帯であってもできるだけ一緒にごはんを食べるとか、週に2回以上夜ごはんを一緒に食べる子どもは、自制心が強いということも分かってきています。ほかにもベッドメイキングをする子どもは幸福度が上がるとか、自分でやっているうちに自分をコントロールできるようになり、自制心が生まれたりします。習慣作りが大切だと思います。

市長 委員の御意見のとおり、先回りをして子どもたちの困難を取り除くのではなく、たくましさを育むためにも失敗を繰り返して、そこから何度でも立ち上がり、何かを学び体得して行ってほしいと思います。

委員 時代によって求められる「社会性」は変化していくもので、大人が身に付けてほしいと思う社会性と、今を生きる子どもたちが必要としている社会性はまた違っているように思います。子どもたちが何に困っているのかといったことを確認したりすることが大事なのではないかとも思います。

現代社会では家族や地域にその機能を求めることは難しくなってきているので、子どもの居場所づくりなどで、これまでは家族で経験できたようなことをイベント化するとか、社会性を育むための体験活動を定期的に行うなど、地道な活動が必要になるのではないかと思います。

市長 印象に残っているのは、昨年度の総合教育会議で教育長からの「不易流行」という言葉にあったように、変わらず大切にすることと、委員の御意見にもあるように、今の子どもたちが生きていくために、社会の変化に柔軟に対応した社会性を身に付けることが大切になると思います。

委員 子どもたちを社会が受入れるということが大事だと思います。
大人が、子どもたちの意見を聞いてあげて、尊重してあげられる日立市になるといいのではないかと思います。

市長 人の話を聞き、言葉でしっかり伝えるということはやはり大事だと思います。

また、子どもたちの話を聞くということもやはり大切だと思います。

各委員から貴重な御意見をいただきありがとうございました。

まとめとしまして、教育長から御意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

教 育 長

様々な御意見ありがとうございました。

急速な情報化や技術革新、グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、私たちの生活を変化させています。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会全体に及んでいる中で、多様性を認め合い、誰もが自分らしく輝ける活躍の場を持てるようにするための教育、言い換えれば、市長からありましたように保護者の経済的な格差など様々な背景を持つ子どもたちが社会的に自立するための基礎や社会の形成者として必要な社会性などの資質を養うことが重要であると考えます。

委員の皆様からは、今後の重点施策について、体験学習、コミュニケーション能力、異文化理解、多様な考え方、社会で自立して生活できる能力、ICT活用能力、学校満足度等のキーワードをお示しいただきました。

また、ひたちらしさを活かした教育では、日立理科クラブとの連携、委員が話された日立地域で培ってきた知恵や技術、ものの考え方と他地域の人たちや文化の交流の中で生み出された「日立力」の考え方は、まさに多様性、異文化理解に通ずるものと考えます。委員からは、激しい変化が予想されるこれからの社会においては、生涯を通じて、スキルアップできるようないつでも主体的に学び続けるという生涯学習の重要性、そのためには学ぶ意欲や社会性等の非認知能力の育成が大切であるとの御指摘をいただきました。また、新たなひたちらしさ、先進的な取組がひたちらしさにつながるとの御指摘をいただきました。

冒頭で申し上げましたように、急速な情報化や技術革新が、社会の在り方を変化させる中にあるからこそ、人の話を聞く、人の考え方物の見方は違うという多様性を認め合う社会性を育み、一人一人が持っている能力を活かし、誰もが自分らしく輝ける活躍の場を持てるようにするための教育が求められていると考えます。

来年度の日立市教育振興基本計画改訂に際し、本日いただいた貴重な御意見を活かしていきたいと思っております。そして「教育は日立市で！」と言われるような教育を実現していきたいと考えております。

本日は、ありがとうございました。

市 長

ありがとうございました。

これからも教育委員の皆様には引き続き、日立市の教育の振興に向けてしっかりとした御意見、御指導をいただければと思います。

私も、日立市の子どもたちが健やかに、その可能性を最大限に伸ばしていけるよう、予算措置も含めて全力で頑張っていきたいと思っております。

今日はいろいろと参考になる御意見をいただきありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しします。

3 閉 会

総 務 課 長

長時間にわたり、意見交換いただきありがとうございました。
事務局では、本日の御意見を基に施策の形成を図ってまいりたいと思います。

以上をもちまして、総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。

以 上